

学校名	愛媛県立今治特別支援学校
活動のテーマ	愛媛の番です。知ろう身の回り！守ろう自分の命！～災害に備えよう～
主な教科領域等	教科領域（総合的な学習の時間 等）
活動に参加した児童生徒数	（中学部1年 小学部2・3・4・6年 高等部1年・通学生 143 人）
活動に携わった教員数	121 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	76 人 【保護者・地域住民・その他（ ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2020 年 4 月 8 日 ～ 西暦 2021 年 3 月 9 日
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 地震・津波・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他 （ ）
活動報告	
<p>1) <u>活動の目的・ねらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒は、自分の身を守ること（自助）や周りの人と助け合う（共助）を学習し、災害に備えることの大切さを知る。また、防災についての知識を蓄え、共に助け合ったり、考え行動したりする態度を培う。 教職員は、防災教育について最新の情報を得ることで防災に対する意識を高め、本校で取り組む課題等に共通認識を持ち、より良い防災教育や研修につなげる。さらに、本校の防災教育の現状を知り、地域との連携を考える契機とする。 <p>2) <u>実践内容・実践の流れ・スケジュール</u>（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）</p> <ul style="list-style-type: none"> 減災教育プログラム後の防災学習及び教職員研修を含めた「防災教育及び防災研修実践のまとめ」（資料1）、「総合的な学習の時間年間計画」（資料2）と「総合的な学習の時間 防災学習スケジュール（資料3）」に示した。それぞれの避難訓練、防災学習、教職員研修をリンクさせ、PDCA サイクルで実施した。 <p>3) <u>9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。</u> <u>昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本校教職員全員に、9月研修会の講義よりESDやSDGsを含めた最近の防災教育と本校の防災教育や研修についてアンケートを実施し、現状と今後の取組について研修（資料4）を行った。その際、9月研修の講義より「東日本大震災による体験談」を宮城県階上小学校長に依頼し、オンラインで講義していただいた。 中学部1年の総合的な学習の時間で実施する（資料5）生徒はもとより、新たな実践として小学部2年生・中・高学年の児童も、助成金で購入した簡易トイレやパーソナルテント、段ボールベッド、間仕切り部屋を活用して避難所生活を体験することが可能になった。 校内滞在時の避難訓練を考えるだけでなく、高等部1～3年生の単独で通学生をしている生徒に、「自分の身を守るためには」の指導（資料6）を行った。 	

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の観点から

- ・ 全校教職員の防災意識が高まり、防災教育は体系的に取り組むべきであるという気運が生まれ、カリキュラムの必要性の声が上がった。また、地域との連携を望む声も聞けた。
- ・ 学校全体での避難訓練だけでなく、教科等で学習する内容を考えるようになった。高等部1年の産業科は、防災について社会科の授業を実施した。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

- ・ ライフラインの途絶状況を想像し、各自非常持出袋を点検することで生徒が具体的な危険箇所を指摘したり、家庭でも持ち物について希望したりするようになり、判断力や発信力が付いた。
- ・ 間仕切り部屋、段ボールベット、簡易トイレ、パーソナルテントの組み立てを友達や教師と一緒に体験設営することで、なお一層、協力する態度が培われた。(資料7)
- ・ 避難グッズの作成において各自ができることに取り組み、力を合わせて共に助け合うことの大切さを知ったり、また、避難生活に足りない物を考えるなどの思考力が付いたりした。災害が発生した際、小学部の児童は想像を働かせて「(段ボールベッドで)眠れそう。」と振り返り時に発表したり、中学部の生徒は設営の手伝いができる自信が感じられたりした。(資料7)

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の観点から

- ・ 教職員は災害発生時の役割や動きを明確に周知したことにより、実動化演習及び各グループで児童生徒の実態や状況に応じた対応が考えられている。ヘルプカードの作成中の訪問教育をも含め、学校全体でより良い防災体制が構築されつつある。
- ・ 各部で防災学習のカリキュラムが作成された。(資料8-①, ②) また、作成及び使用した教材のデータ保存を呼び掛け、共通教材として活用されやすいような表を作成中である。(資料8-③)
- ・ 防災用品の充実や事務課とも連携し、環境整備や震災対応マニュアルの見直しが随時図られている。
- ・ 市の防災教育推進連絡協議会にて本校の防災教育・防災活動の取組を報告した。行政、各自治体や学校の連携を要望し、年1回程度、保育幼稚園学校教職員及び県立高校職員を交えた意見交換会を検討してみてもどうかとの回答をいただいた。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- ・ アクサの研修を全校研修に生かそうと考え、その際、得られた体験談も研修に加え、全校教職員の防災意識の高揚を図った。
- ・ 教職員研修には研修ごとに反省アンケートを実施し、報告すると共に改善に取り組み、次の研修に生かし常に日頃から考えられ進化する防災研修に努めている。

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- ・ 避難訓練とリンクする防災学習のカリキュラムの実践。
- ・ 地域(桜井地区)との防災活動と地域発信。〈登下校時の避難、一時避難場所〉
- ・ 継続する教職員防災研修と新規の保護者への研修。

令和2年度□防災教育及び防災研修実践のまとめ□□□□□□□□□□□□□□□□資料1□□

愛媛県立今治特別支援学校

中学部 防災学習 中1	避難訓練	避難訓練	地域との 訓練	教職員研修	保護者	学校安全 委員会	減災教育プログ ラム後の防災学 習	防災用品の 購入
	学校	寄宿舎						
1学期 総合的な学習の時間 ・身の周りの危険 について考えよう ・非常持ち出し袋 の中身を見直そう	6月9日 防災学習(1) 大災・消火訓練	4月上旬□寄宿舎防災教育(1) 避難方法確認 避難ペア、避難確認 6月3日□寄宿舎防災教育(2) 大災避難訓練 避難場所：正真正期		6月22日 教職員研修(1) 避難、通報、検 査、救護 8月7日 教職員研修(2) 消火栓使用訓練	4月 児童生徒持ち出し 袋の整備・引渡し カードの整備 新入生引渡しカ ード作成	5月 学校保 護 委 員 会		7月 防災テント 特定小電力 トランシーバ 8月 避難用トイレ
	9月3日 防災学習(2) 地震大災訓練	7月6日□寄宿舎防災教育(3) 地震大災避難訓練 避難場所：遊樂場 9月16日□寄宿舎防災教育(4)不 審者対応訓練 10月13日□寄宿舎防災教育(5) 大災避難訓練 避難場所：遊樂場 12月1日□寄宿舎防災教育(6) 夜間集合訓練		9月3日 シェイクアウト 訓練(今治市) 10月26日 今治市防災教育 保護連絡協議会 11月30日 トランシーバ体験 11月30日 教職員研修(4) 講演・今後の取 組・アンケート	12月18日 保護者引渡し訓練	9月 学校保 護 委 員 会	9月□学校指 示 「防災用品の備 蓄」 防火扉スチッカー表 紙 11月4日□高1～3 「家庭学習指導」 11月18日□中1 「避難所の生活体験」 12月中旬□小4 「避難所の生活体験」 12月中旬□高1～3 「避難所の生活体験」 等」	9月 防災用品の備 蓄 10月 災害避難所用間 仕切り 組立式段ボ ール 簡易ベッド
2学期 総合的な学習の時間 ・避難生活を考えよう 新聞スラップ 広告製作 牛乳パックスプーン ペットボトルエコライト ツナ缶ランプ等の制作 ・新居浜防災センター へ校外学習 □□□□□□	10月20日 防災学習(3) 地震車体験	9月16日□寄宿舎防災教育(4)不 審者対応訓練 10月13日□寄宿舎防災教育(5) 大災避難訓練 避難場所：遊樂場 12月1日□寄宿舎防災教育(6) 夜間集合訓練	10月26日 今治市防災教育 保護連絡協議会	6月～8月 各部、寄宿舎等 トランシーバ体験 11月30日 教職員研修(4) 講演・今後の取 組・アンケート			1月下旬□高1 「社会科」地域の防災 2月下旬□小3 「避難所の生活体験」 等」	10月 災害避難所用間 仕切り 組立式段ボ ール 簡易ベッド
	1月8日 防災学習(4) 手書きし 地震避難訓練	1月27日□寄宿舎防災教育(7) 地震避難訓練 3月上旬□寄宿舎防災教育(8) 大災避難訓練□中高3卒業後 新ペア確認	1月8日 シェイクアウト 訓練(愛媛県)	12月18日 保護者引渡し訓練 2月上旬 カラキュラム検討	3月 児童生徒持ち出 し袋の持ち場 り・点検		1月下旬□高1 「社会科」地域の防災 2月下旬□小3 「避難所の生活体験」 等」	3月中旬 学校給食 防災食

令和2年度□□[□総合的な学習の時間□]□□年□間□指□計□画□□□□□□□□資料2□

中学部□1年□□20名

生□徒□名	単元および学習内容		ねらい	実施状況
①～⑩	授□業□者：青野業由□他8名			
年□間□目□標	単元および学習内容		ねらい	実施状況
★□災害に関する調 べ学習や体験的な 活動を通して、自 分の身を守ること や(自助)、周りの人 と助け合う(共助) を学習し、災害に備 えることの大切さ を知る。 ○□自分たちの手 で防災用品を作る ことで、防災の意 識を高める。 □□ ○□本やインターネ ットなどを活用し た調べ学習の 方法を 知ったり、まとめ 方や発表の仕方を 工夫したりする。 ○□愛媛には優れた 特産品があること を知り、生産に取 り組む方々の仕事 を通して、働くこと への関心を高める。	テーマを知ろう 身の周りの危険について 考えよう 過去の災害を知ろう 非常持ち出し袋の中身 を見直そう 避難生活を考えよう オンライン文化祭に向 けてまとめよう 防災頭巾を作ろう 愛媛を知ろう 校外学習に行こう	・今年度のテーマと大まかな予定を 知る。 ・校内の防災設備と設置場所を知る。 ・災害時に自分の身を守るために必 要なことを考える。 ・動画や写真で実際の災害の様子を 視聴する。 ・防災グッズの体験 ・新聞紙スリッパ作り ・広告食器作り ・牛乳パックスプーン作り ・ペットボトルエコライト作り ・ツナ缶ランプ作り ・段ボールベッドの組み立て ・簡易仕切り部屋の組み立て ・学習したことをまとめる ・防災頭巾を作る。 ・愛媛の特産品について調べる ・事前指導 ・校外学習 ・事後指導	・今年度のテーマについて知り、計画や予定を立てて学習に 対する見直しを持つ。 ・防災設備の役割を知る。 ・安全に、自分を守って避難する方法を考える。 ・災害時に役に立つ防災グッズの体験をしたり、必要なもの について調べたりして、非常持ち出し袋の中身について調べる。 ・ライフラインが止まる可能性があることを理解する。 ・ライフラインが停止したとき、何が必要か考える。 ・防災グッズの必要性を知る。 ・なぜ必要なのかを理解しながら、丁寧に制作する。 ・身近にあるもので、代用できることを知る。 ・道具を適切に扱い、安全に留意して制作に取り組む。 ・友達と協力して組み立てる。 ・避難所の生活を疑似体験し、段ボールベッドや仕切り部屋 の必要性を理解する。 ・体験したこと、感じたことを文章やイラストで表現したり、写 真を選んだりして振り返る。 ・防災頭巾を制作する。 ・みかんやタオル、磁器焼等の優れた特産品があることを知る。 ・自分の感じたこと、知っていることを発表する。 ・磁器焼の製作に携わる方々の仕事を知る。 ・日程、先行、活動内容について知り、楽しみにする気持ちを高 める。	□校内の防災設備の名称 や役割を調べた。いろいろ な災害の動画を見ること で怖さを知り、大災害が起 けると、電気、ガス、水道 が使用できなくなる可能 性があることを理解し、非 常持ち出し袋に入れて おくべき物をイラストを 参考にしながら考えた。 実施授業時数□(20) なぜ必要なのかを理解 して、防災グッズ製作に取 り組んだ。広告で作ったコ ップで実際にお茶を飲む ことで、身近にある物で代 用できることを知った。 避難所体験では、友達と 協力して組み立て、仕切り や段ボールベッドがある ことで、快適に過ごせる ことを知った。 実施授業時数□(□)

令和2年度総合的な学習の時間 防災学習スケジュール

愛媛県立今治特別支援学校

【テーマ】

愛媛の番です。知ろう身の回り！守ろう自分の命！ ～災害に備えよう～

- 6月15日 校内の防災設備、避難経路について調べる
- 6月22日 防災設備のそれぞれの役割について
- 6月29日 動画等で災害の怖さを知り、ライフラインが止まる可能性があることを理解する
- 7月6日 ライフラインが止まったら、何ができなくなるか、何が必要か
- 7月13日 非常用持ち出し袋について
- 7月20日 非常用持ち出し袋について（自分にとって必要な物は何か）
- 2学期～ 防災グッズ体験、防災グッズ作り（新聞紙スリッパ、ペットボトルランタン、ペットボトル皿、牛乳パックスプーン、ツナ缶ランプ等）
避難所体験（簡易仕切り部屋、簡易ベッドの組み立て）
校外学習（新居浜防災センター）
- 3学期～ 防災頭巾制作
- 【来年度】
- ・防災食の体験
 - ・応急手当
 - ・教室・学校内・地域の危険な場所を探そう
 - ・防災かるたを作ろう

1

本日の内容

- 1 最近の防災教育について
第7回アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラム
オンライン研修会より
- 2 本校の今後の取組
アンケート結果より
小学部から高等部までのカリキュラム作り

総務課 学校安全主任
山田 ゆかり

2

なぜ、防災教育が必要なのか？

今後、30年間に 南海トラフ大地震が
70%~80%の確率で起こる。

—その時、あなたは あなたを
子どもたちを 家族を 地域を守れるか？—

学校現場では、
**災害を乗り越え、生き抜く力を育むことが
必要である**→防災・減災教育

3

見えない・見える防災教育

「全知P連 BOSAIサイドブック」より

■ 普通の授業の中にある「目に見えない防災教育」

健康な生活・体力 歩行・移動 身支度
集団行動 コミュニケーション
感情認知や感情コントロール
自尊感情・自己有能感



災害を乗り越えるしなやかな力（レジリエンス）

■ 「防災をテーマにした防災教育」

4

防災をテーマとした防災教育

- 災害に対する知識・理解
- 災害に対する意識・想像
- 災害に備える力
- 災害時の判断力・適応力
- 復旧への参画

知識・技能

思考・判断・
表現力

学びに向かう
力・人間性



**自分を守る知識や技能、判断力と行動力（自助）
家族や友達、地域と連携・協働する力（共助）**

5

最近の防災教育

- 防災教育は、ESDと学習指導要領を基本理念としている。
ESDとは？

Education for Sustainable Development
持続可能な開発のための教育

人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、**人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題解決につながる新たな価値観や行動変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。**

ESD国内実施計画より

6

新学習指導要領前文とESD

- **これからの学校には（中略）一人一人の児童が、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。**このため、必要な教育の在り方を具体化するのが、（中略）教育課程である。

7

持続可能な開発目標:SDGs Sustainable Development Goals

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



8

本校の防災学習

アンケート結果より 1

- 1 全教職員(回答者)が防災学習を実施している。
学級、ホームルームにおいて 100%
避難訓練前後に77%が実施。
年間を通して計画的に20%(中学部)
不定期、生単時
- 2 実施内容について (予定含む)
 - ・ 災害について
地震 火事 津波 台風
 - ・ 災害時の場所における対応
学校内、家庭、登下校、休日
 - ・ 防災グッズの製作
マスク、食器、防災頭巾、スリッパ、照明

本校の防災学習

アンケート結果より 2

- 実施内容について（予定含む）
 - その他
 - 将来働く作業所での対応
 - 必要な薬、病院の対応など
 - 持出用荷物の確認

本校の防災教育

- ・ 教材等
 - 「避難訓練時のスケジュール」
 - 「災害から命を守るために」
 - 「くまモンの地震の備え」
 - △ LANの教材が活用されている。
 - 「マイタイムライン」活用は、0名
- 今後、教材の充実を目指す。
 - ・ 消防庁 「チャレンジ防災48」
 - ・ 日本赤十字社
 - 「まもるいのち ひろめるほうさい」 等

防災学習に必要な内容 1

～アンケート結果多い順～

- ダンゴムシの体勢
 - 災害の種類
 - 「おはしも」を知る
 - 避難経路を知る
 - 非常持出袋の点検
 - 引渡し訓練
 - 避難所を知る
 - 防災設備を知る
- 避難訓練の前後

防災学習に必要な内容 2

～アンケート結果多い順～

- 地域のハザードマップの確認
- 避難所生活を体験する。
- 防災食を作る。
- 防災マップ、防災グッズ（スリッパ、頭巾）を作る。
- 応急手当を学ぶ。
- 災害の仕組みを知る。
- 災害伝言ダイヤル
- 地域とのつながり、防災センターの見学

防災学習に必要な内容 3

～アンケート結果多い順～

- 災害の歴史
- ボランティアについて
- その他
 - かかりつけ病院（主治医）との連携

R2年度中学部 1年総合的な学習時間

1学期	2学期	3学期	
6月	災害の種類を知る	9月	非常持出袋を点検
	災害の仕組みを知る	10月～11月	防災マップ作り(マスク食器、服類、2リットル)
	おはしもを知る		防災センターの見学
	避難経路を知る	11月	引渡し訓練、段ボールベットの設置 避難所生活を体験
	ダンゴムシの体勢	12月	防災食作り
	防災設備を知る		
	消火器の使い方		

2年生、3年生で防災マップ作りを予定として考案している。

間仕切り部屋・段ボールベット設置 避難所生活の体験

R2.11.18



くつろげ
まーす

恥ずかしく
ないなあ、
このトイレ

高等部 1年 1組 社会科で学習予定

- 12月 災害の種類を知る
災害の歴史を知る
- 1月 防災マップを作る
地域のハザードマップの確認
地域のつながり

防災学習指導案（総合的な学習時間）資料5

- 1 目的 ・ テントやベッドを組み立てる。 [知識・技能]
 ・ 体験を通して避難所での生活をイメージし、防災意識を深める。 [思考・判断・表現]
 ・ 一人一人の役割を果たし、みんなで協力することの大切さを学ぶ。 [主体的な態度]

2 日時 令和2年11月18日（水）13：30～15：00

3 内容

学 習 活 動	手 立 て	留意点及び〈準備物〉
1 大きな災害が起こったとき、学校が避難所になることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所の写真を見て、イメージを持つ。 	<p>〈避難所や避難所で使用されているグッズの写真〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの人が集まり、長期間一緒に生活することを伝える。
2 組み立てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易仕切り部屋 ・ 簡易段ボールベッド ・ 簡易トイレ ・ パーソナルテント 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一斉の指示に従い、安全に協力して組み立てるよう促す。 ・ より快適な空間にするためのヒントを出す。 	<p>〈手順書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書を確認しながら丁寧に組み立てる。 ・ 隣の部屋を意識し、ベッドの位置や入口の場所を工夫する。
3 体験する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕切りがあると、どのような効果があるのか気付くようヒントを出す。 ・ 床とベッドとの寝心地を比較するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕切りがあることでプライベートが守られ、安心した避難所生活が送れることを確認する。 ・ 段ボールベッドがあることで、長期間の生活が快適になったり、特に足腰の悪い人や高齢者にとって楽になったりすることを伝える。
4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒だけで組み立てができたことを知る。 ・ 気付いたことや感じたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時において一人一人が大きな役割を果たしていることに気付くよう問い掛ける。

単独通学生指導

「登下校における地震時の知識と行動について」

- 1 目的
- ・ 通学路で地震等が発生した場合の行動の仕方を知る。 [知識・技能]
 - ・ 「171記入カード」や避難行動について考える。 [思考・判断・表現]
 - ・ ハザードマップ等を主体的に調べて「171記入カード」を作成する態度を培かう。 [主体的な態度]

2 日時 令和2年11月4日(水) 15:40~15:55

3 内容

学 習 活 動	手 立 て	留意点及び<準備物>
<p>1 震度6弱の地震のパワーポイントを視聴する。</p> <p>・場所により、取るべき行動が違うことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・震度6弱の起震車体験を思い出すように登下校時の通学路での危険を話す。(塀が倒れる、窓ガラスが割れる等) ・学校～バス停・駅は桜井中学校、少しでも高い所に避難することや電車・バス乗車中は乗務員の指示に従うことに気付くように話す。 ・最寄り駅・バス停～自宅への避難行動を考えられるように誘導する。 ・利用する駅やバス停からの通学路はどのような状況になるかを問い掛ける。 	<p><スクリーン、パソコン、プロジェクター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント 「地震から身を守るために」 ・今治市には最短で161分後に+1m津波が到達。最大で3.3m、8時間以上津波は継続することも伝える。
<p>2 今治市、西条市等のハザードマップを見る。</p> <p>3 避難場所や避難所一覧を見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、避難場所や避難所になる所をチェックしておく必要性に気付くように話す。身を寄せる場所として、2か所以上を挙げる。 	<p><「津波防災マップ」今治市、西条市、四国中央市></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「指定避難所一覧」第4教棟1階入り口掲示板に貼るので、自分でチェックするように伝える。
<p>4 「自分の安否を知らせる」災害伝言ダイヤル171を知り、必要なことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「171記入カード」を配布する。 ・避難所についても、記入して携帯することを促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験利用日1日・15日・正月三が日、防災週間等があることを話す。

ランタン



手作りコップ



新聞スリッパ



ツナ缶ライト



掲示



間仕切り部屋設営



段ボールベッドの組立

